中り川よ荒だ

青い雲

教育目標
「めあてをもち　自分で考え　ねばり強くやり抜こう」
目指す学校像：「あいさつ がまん あとしまつ」ができる生徒

村上市立荒川中学校
令和５年度 第11号
令和６年２月14日発行

希望の春になることを願い

校長　渡辺　安治

立春も過ぎ暦の上では春ですが、寒い日が続いています。能登半島地震で輪島市内の多くの中学生が、遠く離れた白山市内の宿泊研修施設などで、授業を再開しています。住み慣れた家から見知らぬ土地に移っての生活は不安で夜もよく眠れないことでしょう。受験生もいますので、ご家族の心境はいかばかりかと想像するに堪えません。同じ中学生とそのご家族が大変な状況にあることを心に留めながら、日々過ごしています。

荒川中では、生徒たちが今年度最後の定期テストを終えて、残り少ない学校生活を充実したものにしようと努力しています。三年生では私立高校の入試を突破し、進学先が決まった生徒がいます。学習だけでなくしっかりと準備をし、健康・安全にも気を付けて生活した努力の成果です。冬休みも励まし支えていただいた保護者の皆様と共に喜びたいです。受験においてのよい流れが、今後の進路決定につながることを願っています。生徒会でも全校でよい雰囲気作りのために「授業態度チェック」に取り組みました。学習に向かう姿勢は、受験の有無にかかわらず、誰でも「夢の実現や目標の達成につながる」と学級ごとに授業態度を振り返っています。また、荒川中をよりよい学校にしたいという意欲のある生徒が面接を受け、新生徒会の書記局員と専門委員長に選出されました。面接を希望した生徒たちは、生徒会長、現専門委員長、顧問から面接を受けようと思った動機や希望する役職の公約を問われ、真剣に訴えていました。新入生の体験入学では、先輩である現一年生が荒川中の学校生活を紹介しました。新入生が安心して入学することを期待しています。

先月、三年生が能登半島地震で被災された方々へ、村上市社会福祉協議会を通じて義援金を届けました。その様子がテレビ・新聞で報道されました。義援金は地域貢献活動で得た収益金です。一昨年八月の豪雨災害で大きな被害を受けた荒川地域の企業や団体の皆様方からのご協力により、三年生が計画した活動に取り組んだ成果です。昨年は作新学院高校はじめ、全国から数多くの支援をいただきました。そして豪雨災害から日常を取り戻そうと懸命に努力する地域の皆様方の姿から「復興への強い思い」を学んだ生徒が、お互いに支え合うことを提案しました。人の役に立ちたいという「崇高な心」が人のために「行動を起こす」ことにつながりました。

今年度の卒業式には、地域の方々をお招きいたします。生徒たちは、地域の皆様方にお世話になりながら成長しています。何かとご配慮いただき、ありがとうございます。誰にとっても暖かく希望の春であってほしいと願っています。寒さが続きますので、どうかご自愛ください。